

COLUMN

連載 58 仕事について考える

札幌大谷大学社会学部 教授 平岡祥孝

あらたまり、この一年も の抱負を胸に刻み込んでおられるところであります。私は今年も健筆を振るうことなく「貧筆」を振り回して、汗顏の至りを散々体験することに。

私事で恐縮ですが、新年早々、ある協会の支部で講演させていただきました。経営職や管理職を対象に、「私学教員から見た若者の意識と行動について」をテーマにお話しいたしました。企業が定着率の向上や社員教育の充実に苦労されておられるることは、指導・支援で過去の経験則が通用しない学生と日々向き合っている我が家としても、重々承知しております。ここは何とかお役に立ちたいと思いつつ、お手伝いした次第です。

ハラスメントやコンプライアンスをテーマにした研修は、規制と自制が結論として明らかに示される予定調和型の研修と言えます。しかしながら、若手社員や女性社員に関するマネジメント研修は「絶対解」なき試行錯誤の連續だと思います。前述したとおり学生指導と難しい昨今、人間関係

を重視したマネジメントは、より難度が高い課題ですね。ある企業経営者は、「職場アンケートを実施したけれども、若手社員は我まま放題、言いたい放題だった」と話しておられました。自己中心的で他者への配慮に欠ける学生が、そのまま職業人として社会に踏み出している実情を直視するならば、もちろん自分勝手な言い分も少なからずあることは疑いのないことでしょう。けれども、それらを彼ら彼女の身勝手とするか、あるいは行間を読み取って深層心理に思いを馳せるか。どちらの見方をするかで、経営職・管理職の対応が全く変わってくるのではないかでしょうか。

成熟社会で育った安定志向の若手を如何に育成していくか。ここはブレイングマネジヤーである管理職の役割は大きいですね。ただし、いつもながら私の独断と偏見ですが、プレイヤーとマネジヤーでは求められる力量・手腕が異なります。「名選手名監督にあらず」ですかね。また、勤続年数と人事育成能力とは比例しません。蛇足ながら、仕事の出来ない経験者は論外ですよ。



【ひらおか・よしゆき】札幌大谷大学社会学部教授。英国の酪農経営ならびに牛乳・乳製品の流通や消費を研究分野としている。女子学生の就職支援やインターンシップ事業に携わってきた経験から、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランス、仕事論、生涯教育などのテーマを中心に、講演やメディアでも活躍。

経験が豊富なだけではメンターは務まりません。メンターとして若手社員に真剣に向き合うとするなことを覚悟しなければなりません。自分の職務を遂行しながら、メンターとしての役割を持つて果たすことには、ある意味、過酷です。どれだけ職場が評価してくれるのでしょうか。不十分ならば、評価制度の改善が必要です。

人口減少社会を迎えて人材流出を防ぐことは、組織存続のための重要課題であることは自明の理。若手を辞めさせない工夫をしなければなりません。ただし、それは彼ら彼女らに迎合することではありません。ただ喜ばしたり褒めたりするだけでは、本末転倒です。ストレス耐性が弱い傾向にある若手を精神論だけで牽引していくことにも無理があります。マネジメントの意義は、構成員に仕事の成果を上げてもらうことだと思います。コミュニケーション以前に多様な価値観を認めることができ、マネジメント改革の第一歩では。

ARTS



ち
び
っこ
*
ギャ
ラ
リ
ー

浦幌幼稚園
ちゅうういっふ組のみんな
雪がなかなか降らないので、
新聞紙で玉をたくさん作り、
大きな袋に詰め、
大きな雪だるまをつくりました！
はやく、ほんものの雪だるまを
みんなでつくりたいな～！！

町議室 か 5

浦幌町は平穏な一年で基幹産業は特に農業がすばらしい豊作を記録しましたが、漢字検定協会の昨年の一文字は「安」という字でした。

安倍総理の安、イスラム国（IS）などによる世界各地でのテロ活動、台風での鬼怒川などの氾濫、そしてTPP大筋合意による食の安全に対する不安などが原因で選ばれたようで、世界、日本全体を見るとき多くの事件が発生し、残念ながら安心の安というわけではなかつた年でした。

今年のお正月は3年ぶりに厚内海岸から初日の出を観測でき寒いながらも素晴らしい天候が続いておりますが、今年はどうな年になるのでしょうか。

1月からマイナンバーの利用開始、3月に北海道への新幹線開通、7月に参議院選挙がありますが、今年も浦幌町にとって平穀な1年であつてもらいたいものと願つています。

しかし、株式市場では大発会が大暴落、北朝鮮の水爆実験発表という年明けであり、何があるか予断は許されません。

安倍首相は今年の年頭所感で「もはや『テフレではない』と宣言しました。

また、総理は「少子高齢化」という構造的な課題に、真正面から立ち向かう「一億総活躍社会への挑戦であり、『戦後最大のGDP（国民総生産）600

期市町村づくり計画」も新たに田
づべつに向けて平成28年度から
は「後期5カ年計画」を更に強
力に進めていきますが、人口デ
ジョンを元に策定した「まち・
ひと・しごと創世総合戦略」と
ともに積極的なチャレンジの年
としてまいります。
小さな町だからこそ素晴らしい
いものが沢山あり、それを学習
し、感じているのが子供たちで
す。

再スタートとなり、2年が経過しましたが、交通事故撲滅はみんなの願いです。

交通安全協会と協力して交通安全に向けた啓蒙活動を進めてまいります。よろしくお願いします。

浦幌町の将来をになう子供たちには小中一貫教育から「ミニユーススクール」と家庭・学校・地域一体となつた取り組みへと町全体での環境づくりが進んでいふのであり、地域への愛着も高まつてあります。が、子供

いえますが、交通事故は災害と同じく一瞬にして尊い生命を失うことがあります。

今年も交通違反3悪の追放と交通事故撲滅に向けて、町民の皆様にも安全運転の励行をお願い申し上げます。

たちが卒業して一時的に町から出て行くことがあつても北海道日本、世界を支える人材に育ちそして愛着のある浦幌町に戻つて業を起こす、起業家として最終的に浦幌町に貢献していくべきたいものと想えていますが、そのために必要な学力向上には

平成28年が、浦幌の将来を確かなものとしていく為に、町民の皆様のご協力をいただきながら「協働の町づくり」に、確実な一步を進めていく年にする必要があります。

家庭学習が必要であり、お家のことでご理解を切にお願いするといふ
であります。

浦幌町長 水澤一廣